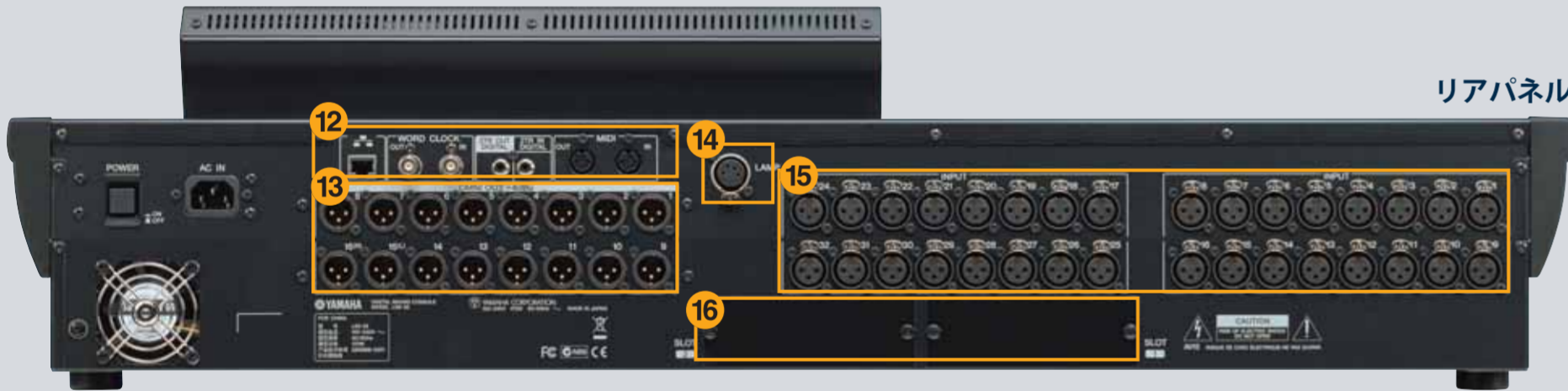
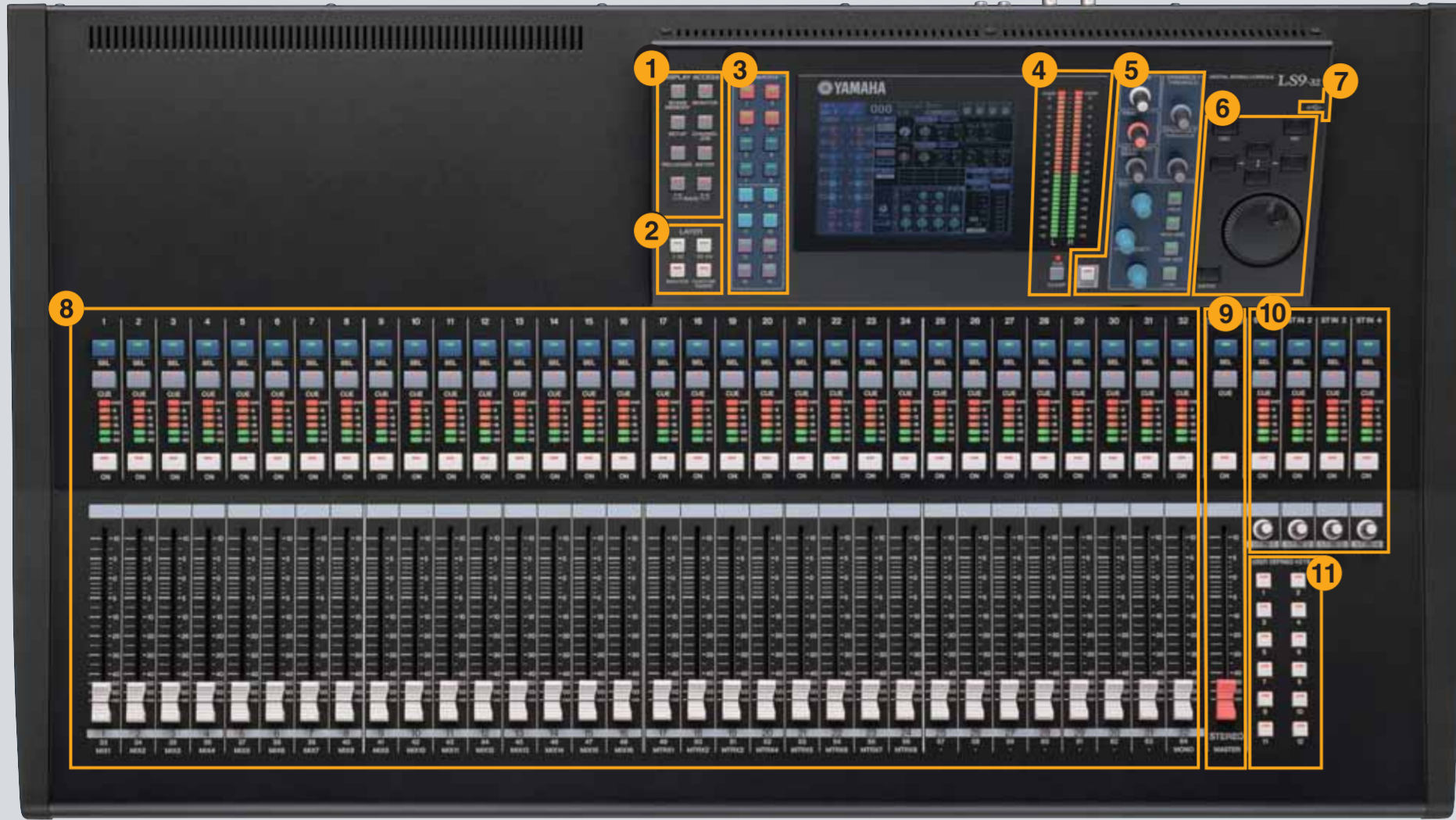


LS9-32
トップパネル

トップパネル

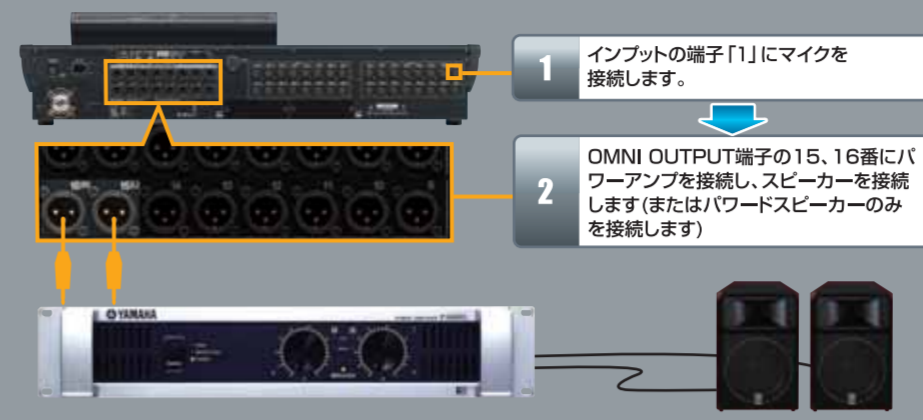
- DISPLAY ACCESSセクション—LCD画面のメインメニューを切り替えるボタン。**
各ボタンは以下の機能の設定用です
[SCENE MEMORY] シーンメモリーのアンドリコール、フェードタイム。
[MONITOR] モニター、キュー、オシレーター、トークバック。
[SETUP] ユーザーレベル、ユーザーディファインドキー、コンソールロック、ワードロックやMIDI、アウトプット端子アサイン。
[CANNEL JOB] チャンネル間コピーとムープ、チャンネルリンク、ミュートグループ、およびリコールセーフ。
[RECORDER] USBメモリーを用いたオーディオファイルの録音/再生。
[METER] 各チャンネルの入出力レベルメーターの一括表示とメーター挿入ポイント。
[RACK1-4] [RACK5-8] ハーチャラック1~4と5~8に割り当てられたグラフィックEQと内蔵エフェクト。
- LAYERセクション—4つのフェーダーレイヤーを切り替えます。**
入力チャンネル1~32操作、入力チャンネル33~64操作、MIXの出力バス系の操作、カスタムレイヤー用、カスタムレイヤーは使用頻度の高い任意のチャンネル（入出力混在可能）をフェーダーに割り当て可能。
- MIX/MATRIXセクション—MIX/MATRIXバスを選択します。**
SELECTED CHANNELセクション内のSELECTED SENDノブによりレベル調整の対象となるアウトプットバスを選択用キー。またキーを2度押しすることにより、SENDレベルをフェーダー上に展開可能（SENDS ON FADERモード）。
- ステレオメーター / CUE CLEARセクション**
32ポイントLEDで構成される高精度ステレオメーターと、同時にキューをクリア可能なCUE CLEARキー。
- SELECTED CHANNELセクション—各チャンネルの特定パラメーターにダイレクトアクセス。**
[SEL] キーにより選択された任意のチャンネルパラメーターを調節、HAゲイン、パン、ダイナミクスのスレッショルドレベル、EQ、SENDレベルを専用ノブでコントロール可能。また、[HOME]キーによりいかなる画面からでも瞬時にメイン画面へ移動可能。
- DATA ENTRYセクション**
カーソルキー、データのINC/DECキー、ダイヤルから構成され、パラメーター設定時の数値入力、カーソル移動用、使用。
- USBメモリー接続ポート**
USBメモリー接続用のポート。USBメモリーは、2トラックオーディオの録音/再生と、シーンやライブラリーのデータ保存用、特定のユーザーにのみ操作を許す認証キーとしても使用可能。
- チャンネルモジュール**
[SEL] 任意のチャンネルのSELキーを押すと、選択したチャンネルのパラメーター設定がSELECTED CHANNELセクションに呼び出され調整可能。ミュートグループやチャンネルリンク、チャンネルコピー、ムープSELキーを使用。
[CUE] チャンネルのキューモニターのオン/オフ用。アウトプットLAYERでのキューの選択も可能。択一キューのLAST CUEモードと複数同時キューが可能なMIX CUEのモードを選択可能。
[Meter] 6ポイントLEDレベルメーター。メーターの挿入ポイントはプリEQ、プリフェーダー、ポストオンから選択可能。

[Fader] 耐久性の高い100mmモーターフェーダー。シーンリコール時にフェードタイムの適用が可能。MASTER LAYERの選択時は、フェーダーは16本のMIXマスターレベル操作用として機能。SENDS ON FADERモードの選択時は、各チャンネルからのアウトプットバスへのSENDレベルがフェーダー上に展開。

- ステレオマスターモジュール**
精巧な100mmモーターフェーダーと[SEL]、[CUE]よりなるメインステレオアウトプットの操作セクション。
- ステレオインプットセクション**
ノブにより、入力レベルを操作する4本のステレオインプット。工場出荷時設定では、各ステレオインプットに4本の内蔵エフェクトからのアウトプットが割り当てられている。
- OMNI Output端子**
ユーザーディファインドキー
各キーの機能をプログラム可能。シーンメモリーリコール、ミュートグループのオン/オフ、タップペンボの入力、レコーダーのプレイポーズ、よく使う画面のブックマークなど、使用頻度の高い機能に瞬時にアクセス可能。

リアパネル

- デジタル関連端子**
ワードクロックIN/OUT用のBNC端子（IN端子は内部で75Ω終端）、2trデジタルオーディオ（S/P DIF）IN/OUT用のコアクシアル端子、MIDI IN/OUT端子。ネットワーク端子はLANによるPC接続用（Windows対応無償ダウンロードソフト「LS9エディター」使用）。
- OMNI OUTPUT端子**
ステレオLR、ミックス、マトリックスなどのアウトプット系信号用。XLR-32タイプ出力端子。全端子にスピーカー間の距離補正用のポットダイヤレ、位相反転機能を搭載。最大出力レベルは+24dB。
- ランボコネクター**
別売グースネック式ランボ（ヤマハLAL1）用コネクター。
- アナログ入力端子**
マイクロフォンからラインレベルまでカバーするアナログ信号用バランスXLR-31タイプ入力端子。全ての端子にゲイン値メモリー可能な高性能ヘッドアンプを装備。
- Mini-YGDAIスロット**
入出力ポートを拡張するためのスロットで、別売Mini-YGDAI I/Oカードの装着用。スロット1基につき最大16チャンネルの信号を入力可能で、アナログ/デジタルの各フォーマットに対応。コンソール2台同時使用のバスカスケード接続にも対応。

STEP 1 LS9を接続する


- 1 インプットの端子「1」にマイクを接続します。
- 2 OMNI OUTPUT端子の15、16番にパワーアンプを接続し、スピーカーを接続します（またはパワードスピーカーのみを接続します）

STEP 2 LS9の電源を入れる


- 1 電源接続端子に電源ケーブルを接続し、電源を供給できる状態にします。
- 2 POWERスイッチを押して、LS9本体の電源を入れます。パワーアンプやパワードスピーカーの電源はスピーカーの保護のため、次のLS9の状態を確認後、電源を入れるようにします。

STEP 3 LS9の状態確認

LS9は電源を入れてからすぐに使用することが可能ですが、はじめてお使いになるときには、以下のことを確認してください。

パターンA

- お買い上げ後、はじめて箱を開梱して取り出したとき
このときには工場出荷時状態です。電源を入るとシーン「000」が表示されますので、次のSTEP 4へお進みください。

パターンB

- シーンナンバーに「000」以外が表示されたとき
- シーンナンバーに「000」が表示されていてもEマークが表示されている場合
- レンタルしたとき
- 他人が使用した後に使用する場合
これらに当てはまる場合には、初期化（シーン「000」を呼び出す）することで、音声を出発することが可能です。一度シーン「000」を呼び出してから、次のSTEP 4へお進みください。

パターンC

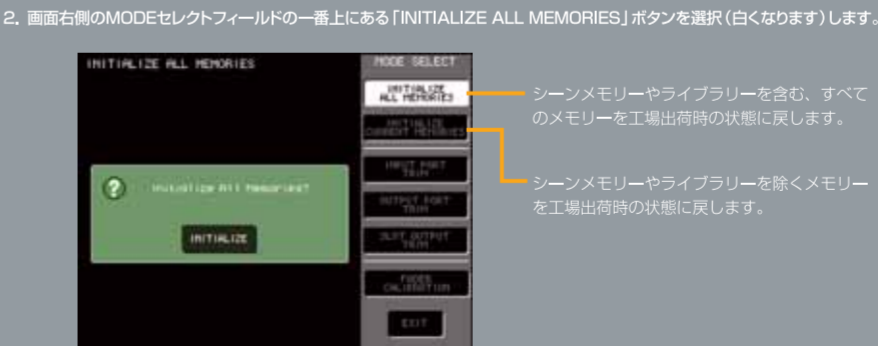
- 工場出荷時の状態に戻りたい場合
- シーンメモリーをすべて初期化（何も無い空白状態）したい場合
- この手順通りに設定しても音が全く出なかったとき
- Bで初期化しても音が出なかった場合
これらに当てはまる場合には、初期化できないパラメーターが有効になっている場合があります。工場出荷時の状態に戻す（イニシャライズ）することで、すべてのパラメーターを最初の状態に戻します。このとき、既にシーンメモリーが組んである場合にはすべてのシーンがクリアされますので、ご注意ください。

NOTE

シーンメモリーとライブラリーを維持した状態で、それ以外のメモリーを工場出荷時の状態に戻すことも可能です。

工場出荷時状態への戻し方（イニシャライズの方法）

1. DISPLAY ACCESSセクションのSCENE MEMORYキーを押しながら、電源を入れます。下記の画面が出てくるまで、キーは押し続けてください。


NOTE

- ここで、INITIALIZE CURRENT MEMORIESボタンを選択すると、シーンメモリーとライブラリーは維持されます。INITIALIZE中に電源は落とさないで下さい。INITIALIZEには数分かかります。INITIALIZEが終了すると「EXIT」ボタンが表示されますので、カーソルを合わせ、ENTERボタンを押します。すると通常起動を始めます。
- 画面左側のダイアログ内部のINITIALIZEボタンにカーソルを合わせ、ENTERキーを押します。
- 操作を確認するダイアログが表示されるので、ダイアログ内のOKボタンにカーソルを合わせてENTERキーを押します。イニシャライズが実行されます。このときには、イニシャライズが終了するまで他のキーを押さないでください。
- イニシャライズが完了したら、EXITボタンにカーソルを合わせてENTERキーを押すと、通常モードで起動します。
- シーンメモリー「000」が呼び出されていることを確認してください。このとき、すべてのフェーダーが∞dB（一番下まで下がっている状態）を確認後、STEP 4に進みます。

Set Up

—まずは音を出してみましょう—

- LS9の電源が付いている状態で、接続機器（パワーアンプ、パワードスピーカーなど）の電源を立ち上げます。

STEP 4 チャンネルを選択する

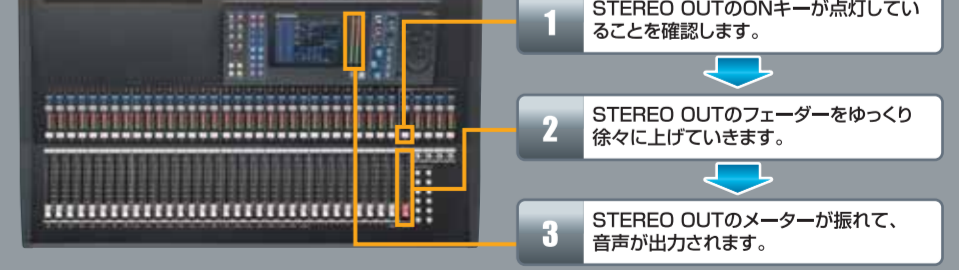

- 1 4つのLAYERボタンのうち「1-16」が点灯していることを確認します。
- 2 チャンネル「1」のSELボタンを押します。これでチャンネル「1」の選択ができたこととなります。
- 3 SELボタンで選択したチャンネルはこの部分のつまみで調整を行うことができます。

STEP 5 ヘッドアンプゲインを設定する


- 1 チャンネル「1」のメーターを確認しながら「HA GAIN」のつまみを回し、ゲインの調節をします。
- 2 チャンネルのレベルメーターの「OVER」が点灯しないように信号レベル調節をします。

STEP 6 チャンネルフェーダーを操作する


- 1 MIX/MATRIXの16個のボタンが全て点灯していないことを確認します。（どれか一つが点灯しています。）
※SENDS ON FADER機能が有効でないことの確認。
- 2 チャンネル「1」のONボタンが点灯していることを確認します。
- 3 チャンネル「1」のフェーダーを上げます。

STEP 7 STEREO OUTのフェーダーを操作する


- 1 STEREO OUTのONキーが点灯していることを確認します。
- 2 STEREO OUTのフェーダーをゆっくり徐々に上げていきます。
- 3 STEREO OUTのメーターが振れて、音声が出られます。

音は出ましたか？

- YES** ➡ 簡単マニュアルに進んでください。
- NO** ➡ 再度STEP 1から確認してください。またはトラブルシューティングを参照してください。